

2023年8月13日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒1番（旧4番）（MK姉）

『父なる御神よ』

聖書⇒ガラテヤ人への手紙 6:14~15節（MM姉）

『しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。』

礼拝讃美歌⇒132番（旧196番）

『栄えの主イエスの』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 3:5~11節（HT姉、MY姉）

『わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。』

礼拝讃美歌⇒98番（旧187番）（KH姉）

『馬槽の中に』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 3:8節（SK兄）

『そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみえています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒216 番

『キリストには代えられません』

《パン裂き》

聖書⇒イザヤ書 25:6 節 (NH 兄)

『万軍の主はこの山で祝宴を開き／すべての民に良い肉と古い酒を供される。  
それは脂肪に富む良い肉とえり抜きの酒。』

聖書⇒マタイによる福音書 26:26~30 節

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 19:5~9 節 (NH 兄)

『また、玉座から声がして、こう言った。「すべて神の僕たちよ、／神を畏れる者たちよ、／小さな者も大きな者も、／わたしたちの神をたたえよ。」わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ、／全能者であり、／わたしたちの神である主が王となられた。わたしたちは喜び、大いに喜び、／神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、／花嫁は用意を整えた。花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、／聖なる者たちの正しい行いである。」それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。』

礼拝讃美歌⇒153 番

『わがためいのちを』

(式)

礼拝讃美歌⇒405 番  
『愛する者を養うために』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 15:1~5 節 (ES 姉)

『わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

聖書⇒イザヤ書 5:1~7 節

『わたしは歌おう、わたしの愛する者のために／そのぶどう畑の愛の歌を。わたしの愛する者は、肥沃な丘に／ぶどう畑を持っていた。よく耕して石を除き、良いぶどうを植えた。その真ん中に見張りの塔を立て、酒ぶねを掘り／良いぶどうが実るのを待った。しかし、実ったのは酸っぱいぶどうであった。さあ、エルサレムに住む人、ユダの人よ／わたしとわたしのぶどう畑の間を裁いてみよ。わたしがぶどう畑のためになすべきことで／何か、しなかったことがまだあるというのか。わたしは良いぶどうが実るのを待ったのに／なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか。さあ、お前たちに告げよう／わたしがこのぶどう畑をどうするか。囲いを取り払い、焼かれるにまかせ／石垣を崩し、踏み荒らされるにまかせ、わたしはこれを見捨てる。枝は刈り込まれず／耕されることもなく／茨やおどろが生い茂るであろう。雨を降らせるな、とわたしは雲に命じる。イスラエルの家は万軍の主のぶどう畑／主が楽しんで植えられたのはユダの人々。主は裁き（ミシュパト）を待っておられたのに／見よ、流血（ミスパハ）。正義（ツェダカ）を待っておられたのに／見よ、叫喚（ツェアカ）。』

聖書⇒申命記 6:4 節

『聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 16:1~4 節

『これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせないためである。人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。彼らがこういうこ

とをするのは、父をもわたしをも知らないからである。しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに、わたしが語ったということをあなたがたに思い出させるためである。』』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 1:17~23 節

『どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。』

礼拝讃美歌⇒476 番（旧 266 番）

『いかなる恵みぞ』

《建徳要旨》